

64 生分解性マルチを利用した栽培試験

福島県たばこ試験場・平成10～12年度試験成績概要

- 1 部門名 特用作物—タバコ—その他 分類コード 06-01-99000000
2 担当者 吉岡邦雄
3 要旨

生分解性マルチ7資材について葉たばこ栽培における適応性を検討した。

- (1) 生分解性マルチは、化学合成系としてポリカプロラクトン系2資材、ポリブチレンサクシネート系3資材、天然高分子系としてデンプン系1資材、その他として再生紙を使用したもの1資材の計7資材について検討した。
- (2) 再生紙を使用したマルチ(まるちゃー70)の地温は透明ポリエチレンフィルムに比べ3～7℃低く経過し、タバコの初期生育が遅れた。ポリカプロラクトン系の資材(環太郎、セルグリーン)はポリブチレンサクシネート系(キエ丸、バイオマルチ、イーマルチ)やデンプン系(マタビーX)の生分解性マルチにくらべ地温がやや高く経過したが、いずれの生分解性マルチも、透明ポリエチレンフィルムに比べ1～2℃程度低い地温だった。再生紙を使用したマルチをのぞいて、透明ポリエチレンフィルムに比べ生育に大きな差は見られなかった。
- (3) デンプン系マルチはフィルムが劣化したため5月中に畦の上部から裂けたが、他の生分解性マルチは地際部から分解が進んだ。6月中に分解が進むと、雑草の影響などにより栽培に支障を来した。
- (4) 収量品質は透明マルチに比べ、同じかやや劣る程度であった。
- (5) 地際の分解が7月上旬まで進まなかったポリブチレンサクシネート系の1資材については、葉たばこ栽培で使用可能と考えられた。